

後発医薬品の安心使用促進に係る県の取組

I 令和 7 年度後発医薬品安心使用促進事業実績

1 概 要

- ◆令和 7 年度は、後発医薬品使用促進のための事業として、後発医薬品安心使用促進協議会の開催、岩手県保険者協議会での報告、ポスターの作成等による啓発を実施した

2 後発医薬品安心使用促進協議会

◆開催日等

令和 8 年 1 月

◆議題

- (1) 後発医薬品の安心使用促進に係る国の取組等について（報告）
- (2) 後発医薬品の安心使用促進に係る県の取組について（報告）
- (3) 日本ジェネリック製薬協会の取り組みについて（情報提供）
- (4) 協議会構成機関等の取組について（情報提供）
- (5) その他

3 岩手県保険者協議会での報告

- ◆岩手県保険者協議会企画調査部会・保健活動部会合同部会で、後発医薬品・バイオ後続品の使用促進に係る報告を行った（令和 7 年 9 月）

4 啓発事業

◆ポスター掲示

- ・バイオシミラー周知用ポスター 800 枚を作成して掲示を行った。

岩手県交通 バス 202 台（掲出期間：1/1～2/28）

岩手県北自動車 バス 48 台（掲出期間：1/1～2/28）

JR 東日本（大船渡線・北上線、釜石線・山田線・花輪線
各車両 1 枚、盛岡駅等 各 1 枚）

（掲出期間：1/1～2/28）

IGR いわて銀河鉄道（各車両 1 枚、盛岡～二戸各駅 1 枚）

（掲出期間：1/1～2/28）

三陸鉄道（各車両 1 枚）

（掲出期間：1/1～2/28）

ファミリーマート 174 店舗（予定）

市町村国保担当課及び医療費助成担当課等

◆後発医薬品使用促進啓発資材の配布

啓発資材（「ジェネリック医薬品希望シール」、リーフレット「ジェネリック医薬品を使ってみませんか」を差し込んだポケットティッシュ）を市町村国保担当課及び医療費助成担当課等で配布予定。

Ⅱ 令和８年度後発医薬品安心使用促進事業計画（案）

1 後発医薬品安心使用促進協議会

◆協議会

後発医薬品の使用状況等情報共有

2 啓発事業

◆啓発活動

啓発資材の配布等による啓発活動を継続して実施

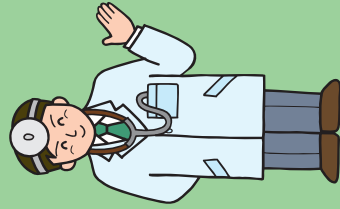
- ・啓発資材入りポケットティッシュの配布
- ・啓発ポスターの作成・掲示

（令和７年度事業をベースに実施）

もっと詳しく
知りたい場合は？



医師・薬剤師に、
お気軽にご相談ください。



ジェネリック医薬品は医療用医薬品ですから、病院や診療所の医師による処方せ
んが必要です。詳しくは、かかりつけの
医師や薬局の薬剤師にご相談ください。

【お問い合わせ】

- 厚生労働省
TEL 03-5253-1111
- 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA)
(くすり相談窓口)
TEL 03-3506-9457
- 公益社団法人日本薬剤師会(くすり相談窓口)
TEL 03-3353-2251
- 日本ジェネリック製薬協会
TEL 03-3279-1890
- 一般社団法人日本保険薬局協会
TEL 03-3243-1075
- 日本ジェネリック医薬品・バイオリミラー学会
TEL 03-3438-1073
- NPO法人 ジェネリック医薬品協議会
TEL 03-3756-0192

●ジェネリック医薬品に関する情報は

 厚生労働省 [ジェネリック](#) [検索](#)

お薬を使うすべての方に知ってほしい制度です。



医薬品副作用 被害救済制度

医薬品は正しく使っても、副作用の発生を防げない場合があります。

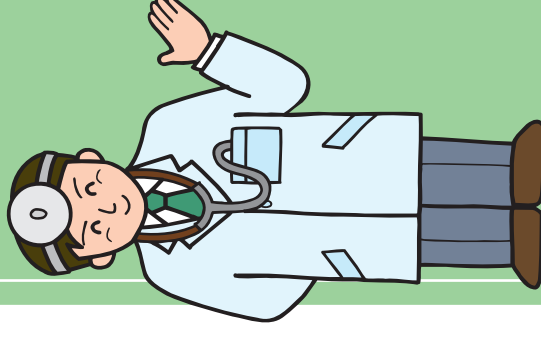
そこで、医薬品（病院・診療所で処方されたもの、他、薬局等で購入したものも含みます。）を適正に使用したにもかかわらず、その副作用により入院治療が必要になるほどの重篤な健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付を行う公的な制度が、医薬品副作用被害救済制度です。

●この制度に関する情報は

 独立行政法人
医薬品医療機器総合機構
副作用 救済
または
PMDA [検索](#)

ジェネリック医薬品の選択は、
自己負担の軽減だけでなく、医療費
全体の抑制にもつながります。

ジェネリック医薬品を
使ってみませんか！
厚生労働省も使用を推奨しています。



ジェネリック医薬品は、これまで使われてきた
お薬の特許が切れた後に、同等の品質で製造販
売される低価格のお薬です。

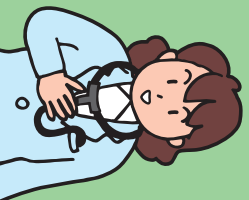


厚生労働省

どのくらい 安いのか？



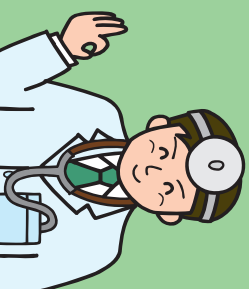
お薬の価格は5割程度、
中にはそれ以上
安くなる場合もあります。



効き目は 確か？



効き目はもちろん、
安全性も同等ですので、
安心して使うことができます。



種類は あるのか？



さまざまな病気や症状に
対応しています。



新しい医薬品は開発に長い時間と多くの費用がかかりますが、ジェネリック医薬品は開発期間が短くて済むので、その分価格が安くなります。

※窓口でお支払いいただく患者負担金は、お薬の費用のほか、調剤料などが加わります。

ジェネリック医薬品は、これまで効き目や安全性が実証されてきたお薬と同等と確認された上で、製造、販売が認可されています。

高血圧や高脂血症のお薬、糖尿病のお薬など、さまざまな病気や症状に対応しています。カプセル、錠剤、点眼剤など形態も豊富です。
※すべてのお薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。

もっと知ってほしい 「バイオシミラー」のこと

私たちが病気になったとき、治療に欠かせないのが医薬品。
数ある医薬品のひとつ、バイオ後続品「バイオシミラー」は、
先行バイオ医薬品と同等の有効性があり、
さらに医療費負担を軽減するというメリットを持っています。



Q1

バイオシミラーとは何ですか？

ジェネリック医薬品と同じように、先行バイオ医薬品の特許が切れた後に、別会社が製造・販売する医薬品です。先行バイオ医薬品と同等の品質や安全性、有効性があることを国が審査してから発売されています。

Q2

バイオシミラーはどのような病気の治療に使われていますか？

がんや糖尿病のほか、関節リウマチ、乾癬、腎性貧血、骨粗鬆症の治療などに幅広く使われています。近年では加齢黄斑変性など、目の病気の治療に使用されるバイオシミラーもあり、年々種類も増えています。

Q3

なぜバイオシミラーが必要なの？

バイオ医薬品は価格が高いものも多く、患者さんや家族の経済的負担となります。しかし、バイオシミラーを使用することで医療費を軽減できる可能性があります。

バイオシミラーは原則として、特許が切れたバイオ医薬品の70%の値段です

＼ バイオシミラーを詳しく知りたい方は、かかりつけ医やかかりつけ薬局にご相談ください ／

